

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 2月 27日

事業所名 児童発達支援 放課後等デイサービス幸樹 2号館

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	5	仕切りを設け工夫している。	レクリエーションにより狭いと感じる事があり、スペースが必要。
	2	職員の配置数は適切である	2	5	配置を全員でよく考えている。	外出時など、シフトの調整が必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7		完全バリアフリーである。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		全員で振り返りおこなっている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		ホームページにて掲載している。	評価表を参考に改善に努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		毎月研修をおこなっている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		一人一人に合ったニーズ課題に沿い作成している。	職員一人一人、日々子どもたちの様子をよく観察できるよう学ぶことが必要を感じる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		専門医の意見書なども把握している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		全員でよく話し合っている。	風通しの良い職員関係を、保てるようにしたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		情報を持ち寄っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		休日対応の活動を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	個別・集団を組み合わせ作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		必ず分担の確認をおこなっている。	共有不足が無いようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		記録を書きながら職員間で話し合っている。	各職員が自発的な発言が出来る空間にしたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		毎日おこなうようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		半年に一度は必ずおこなっている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		ガイドラインについて学ぶ機会をつくる。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		日々、情報共有おこない児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		協力の得れる学校とは、連絡調整をおこなう事が出来ている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1	必要に応じて対応している。	サポートブック等を迅速に作成出来るようにしておかなければならない。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	定期参加している。	色々な人が、参加できるようにしなければならない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7		公園などで関わることはあるが、計画的には難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	2	毎回参加している	把握していない職員もいるため、再度周知する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	2	児童発達支援管理責任者が電話・メールなどでおこなっている。	把握していない職員もいるため、再度周知する。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1		褒める声掛けのタイミングなどを学ぶ必要がある。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に必ずおこなっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		児童発達支援管理責任者から助言をおこなっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		保護者同士の連携を図るには課題がたくさんある
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	苦情について迅速に対応・記録している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	ホームページに掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	7		研修し書庫保管徹底している。	個人情報取り扱いの研修は随時おこなう。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		視覚的に把握・理解できるようにしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		毎月おこなっている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		研修を徹底している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2	事前に支援計画に記載し説明・同意をいただいている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		必ず確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	共有している。	把握していない職員もいるため、再度周知する。